

自分たちで気づいた「ふるさと」のよさ

小山 紘徳（多治見市出身）



第二次ベビーブームで1クラス40人の5クラス。中学になると別の小学校からも集まり10クラスというマンモス校だった。増設されたプレハブ教室だった私の教室も、今では少子化の影響で駐車場になっている。夏は暑く、冬は寒いプレハブ教室も無くなってしまふと寂しい。

恥ずかしながら自分の故郷を改めて調べてみることにした。我が「ふるさと」多治見は、岐阜県の東南部に位置する。美濃焼の産地として有名であり、市内には由緒ある窯元や陶磁器に関する美術館、資料館、ギャラリーなどが点在する。名古屋市の中心部まで鉄道で約30分と近いことから、1980年代から1990年代前半にかけて新興団地や分譲マンションなど住宅開発が盛んに行われたため、名古屋のベッドタウンとしても知られる。2007年8月16日14時20分には日本国内の最高気温となる40・9℃を日本で最初に観測している（埼玉県熊谷市も同日同じ最高気温40・9℃を記録）。また2006年には37℃以上を記録した日数が日本で最多になった「日本一暑い町」である。

多治見市立北栄小学校で育った。

小学校では、タイムカプセルを作った。それぞれの未来を作文にして埋めた。それを成人式に掘りおこすイベントのハズだった。成人式を迎え、校庭に集合した。集まった人数は200人中20人程いただろうか。皆、何を書いたのかすっかり忘れていた。ウキウキしながら埋めた場所に到着すると、そこはとても綺麗にコンクリートで埋め立てられていた。一同顔を合わせて失笑、そして爆笑に変わった。タイムカプセルは、今現在も大切にコンクリートが守ってくれている。いつ、誰に発見されるのかを考えると、夢が膨らむ。

全員の手紙が誰かの元へ届く訳ではない。当然海に落ちたり木に引っかかったりした筈である。私の手紙は、6年間のうち一度だけ群馬の同学年の女の子2人に届いた。給食時間に放送委員から、届いた手紙の返信を読み上げる時間があり、とても楽しみにしながら給食時間を過ごした。電子メールで気持ちが届けられる昨今、考え直して見ると、とても夢のあるイベントだったようにおもふ。

自作の壺を造り、校庭で焼いた。秋には畑でとれた薩摩芋を焼いて食べる収穫祭もあった。凧揚げ大会では40連凧を大空に飛ばした。あと5年で人生の半分を東京で暮らすことになりませんが、仕事柄、想像力を働かせる機会が多く、いつも発想の原点は多治見がヒントになったりします。グーグルアースで見る故郷はとてもシンプルですが、私にとっては中身の詰まった故郷です。現在の小学生が大人になる頃も、思い出が多かったと思える町であって欲しい。最近では陶器産業も衰退しているようです。小学校での野焼き祭りも無くなってしまったのだろうか。



北栄小学校創立記念日の風船飛ばし



夢よ届いてくれ…風船作り

演歌のCOOLさを感じ、われながら少し恥ずかしく思う。

せめて生まれ育った町の良さは自分達で気付きたい。

メディアの影響もあるかもしれないが、時代によって格好良さの定義が変わる様に思う。これからは故郷の良さ、日本の良さを改めて見直し、海を超えて海外に発信できることがこれからのCOOLさであって欲しいし、故郷への恩返しになるかもしれない。

現在、八百津では鉄道がなくなり、学校も減り、更に過疎化が進んでいると聞いた。八百津出

身の杉原千畝の話は以前から母親に聞かされていて、帰省の際には人道の丘公園にもよく足を運ぶ。丘の上から眺める景色はとても良く、敷地内にある鐘を鳴らすとても清々しい気分になる。いつまでも風化しないでほしい。

芸能に携わっている人間として何かのタイミングで発信できたらと思う。

「大人になってから素敵な思い出に変わることを見越しているのはからいだったのだろうか？」と思うと、何かこの町や人々に恩返しができればと思う。東京から発信できる何かはないのだろうか？

最近、海外の方に日本の良さを改めて気付かされることがある。アニメやホラー、ゲームをはじめ、ハリウッド映画にサムライ魂とは何かを考えさせられ、演歌歌手のシェロに